

# モーニングの都市民俗学

島村恭則

The Urban Folklore of the "Morning Set"

## ①問題の所在

## ②事例

## ③若干の検討

### [論文概要]

本論文では、都市民俗学の立場から、喫茶店、とりわけそこで行なわれるモーニング（朝食を、自宅ではなく、喫茶店のモーニングセット（モーニングサービス）でとする習慣）という事象に注目し、記述と問題点の整理を行なった。本論文中で行ないえた指摘は、およそ次のとおりである。

- (1) モーニングが行なわれる理由は、①労力の軽減、②単身者の便宜、③コミュニケーション、のうちのどれか、あるいはそれらの複合に求められる。
- (2) 日本におけるモーニングは、豊橋以西の、中京圏、阪神圏、中国四国のそれぞれ都市部、とりわけ工業地帯の下町的な地域に分布しているものと見ることができる。
- (3) モーニングは、一九六〇年代後半から行なわれるようになっていっていると見られる。その場合、喫茶店経営者側は、出勤前のサラリーマンへのサービスを意図してモーニングセット／サービスを開始したのであつたが、これが地域で受容される際には、地

域の生活者、とりわけ女性たちの井戸端会議の場としての機能を果たすようになつてゐる。

(4) アジア的視野で眺めた場合、都市社会においては、朝食を外食するほうが一般的だといつてよいくらいの状況が展開されており、日本のモーニングには、アジア都市社会に共通する生活文化としての性格が存在するといつても過言ではない。

- (i) モーニングの場は、他者と他者とが場を共有しながら、そこでさまざまな言葉を交わす公共圏であるが、そこで語られるのは、決して論理的に整理された明晰な言葉ではない。むしろ、モーニングの場は、そうした論理的な言葉で形成される「市民的公共圏」からは排除される言説あるいは人々が交流する場として存在するのであり、「」の空間は市民的公共圏に対する「もう一つの公共圏」として位置づけることができる。